

助成者	凌 祥之	活動期間	2017年4月～2020年9月
所属機関	九州大学大学院農学研究院	職 名	教授

北部タイの山岳地域における土と水の保全

【活動場所】 タイ チェンマイ県メーチェム郡

【事業目的】 東北タイは農業と林業を主体としているが、近年はむやみに山岳の開拓を進めて森林伐採とトウモロコシ栽培が進んでおり、トウモロコシの残渣は野焼きしている。収穫後の残渣焼却処理は深刻な煙害を発生させ、土壌の浸食を助長している現状にある。当事業は、トウモロコシの残渣を堆肥化および炭化、飼料化を進めて現地の資源循環を促進させ、これらを有効活用して有機農業への転換を進め、農業生産の高付加価値化を目指す。

残渣の被覆効果検証



堆肥化のワークショップ



【活動内容】

現地の活動主体はチェンマイ大学農学部であり、助成者と協働して下記活動を実施。

- ① バイオ炭づくり、バイオ炭含有肥料づくり、トウモロコシ残渣利用の堆肥づくり
- ② 不耕起有機野菜栽培法の実践 ③ トウモロコシ皮を用いた動物用発酵飼料作成
- ④ バイオ炭作成とバイオ炭混合堆肥作成のワークショップ開催（学生含む）
- ⑤ 技術普及のためのテキスト、動画の作成

【活動成果】

チェンマイ大学は当該地区で「大気スモッグを軽減し、土壌と水を保全するための農産物管理ガイドライン」を研究しており、当事業活動はその支援策の位置付けでもある。成果として、当活動への参加者は200名を数えた。3年間の農地利用の変化は、野菜・果物栽培面積が約2倍に増え農業の多様化が進む一方、トウモロコシ栽培地も12%増加しており減少迄には至っていない。大気汚染起因の患者数は1年目と3年目を比較すると14%減ったが、2年目から3年目は増加しており今後の推移が注視される。参加者アンケートからは95%の高い満足度評価が得られ、活動の内容はテキスト、映像化されて普及へ活用されており、所期の成果を挙げる事ができた。